

大きく育て!!

いなっ子たち

「小室小学校農業体験教室」



6月10日に、小室小学校の5年生が農業体験教室として、田植えを行いました。

田んぼにおそろおそろ足を踏み入れたみなさんは、慣れない手つきでしたが、一束ずつ、ていねいに苗を植えていきました。

田んぼから聞こえるのは、悲鳴にも似た歓声でしたが、少しずつ「楽しい」「気持ちいい」といった声も聞かれるようになり、有意義な体験ができたようです。



みんなおっかなびっくり

ぼくは、最初はなんか田植えをするのが大変そうだし、土があまり気持ちよさそうに見えなかつたです。でもじつさいに、入ってみると、土はぶによぶによしてて気持ちよくて、田植えは思ったよりとてもおもしろかつたです。稲かりも楽しみです。



川原 航くん
(5-1)



ぼくは、田植えをして昔の人は少ない人数であんなことを「もつとたくさんやっていゝんだなあ。」と感心しました。ぼくは、農家の人のとなりでやっていたので、やり方



横田 圭亮くん
(5-2)

田植えをする前から「おもしろそう、やってみよう」と思っていました。やっていゝところを見たらかん単そうに見えたけれど、自分でやったら歩きにくいし大変だし、「ピツクリ」しました。けれどとても「おもしろい」と思いました。農家のおじさんに苗の持ち方のこつを教えてもらえました。どろんこになってしまいました。おじさんたちが田植えのときになると、今日植えた何倍もの広さの仕事をしていると思うと、とても大変で苦労しているんだなと思いました。



菊池 梨香さん
(5-1)

最初は、「ちよつといやだなあ。」って思ったけど、やってみたらすごく楽しかつたです。「もつとやりたいナ。」と思いました。機械よりうまくできたらすごいと思つたけど、やっぱり機械の方が上手でした。田植えのやり方もや



日下部 智美さん
(5-2)

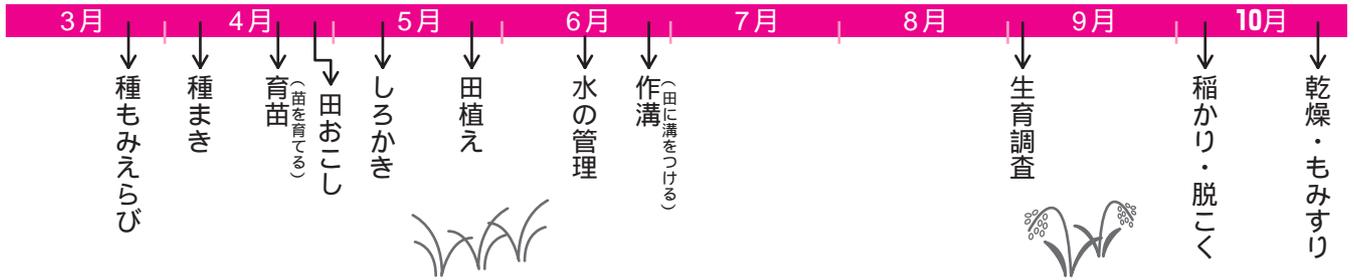
をよく教えてもらえました。自分でも、初めてやった所より後の方にやった所の方がうまくできているのを実感しました。後の方になると、どろ水が気持ちよくなりました。またやりたいです。次に行くときが楽しみです。



うまくとりわけて...

農家の稲づくり

・・・山形県庄内地方の稲作をモデルにしています。



お米ができるまでの作業

荒おこし、浸種しんじゅ、種まき、育苗管理、しろかき、田植え、草取り、肥料散布、農薬散布、中干し、収穫作業、もみすりなど、たくさんのお仕事があり、88通りの種類があるともいわれています。

稲の生育について

6月～7月 分けつ・・・分身が増えます。
8月 開花・・・白い花が咲きます。
10月 穂が曲がる・・・収穫の合図です。

お米あれこれ

Q1 1,000㎡あたりの収穫量は？
A 約500kgです。
Q2 日本人はどのくらいお米を食べるの？
A 1年で1人あたり60kgを食べます。
Q3 伊奈町で作られているお米の品種は？
A コシヒカリ、キヌヒカリ、朝の光などです。
Q4 なぜ、田んぼに植えるの？
A 水を好み、乾燥に弱い植物だからです。

さしくていねいに教えてくれて、自分でも最初にしてはうまくできたと思います。ほかの友達やほかのクラスの子どもとも上手でした。「2組が一番うまく植えるぞ。」と思いつつやりました。終わりのときは、「えっもう終わりなの？もつとやりたい。」と思いました。最初の気持ちと最後の気持ちは、ぜんぜんちがいました。



持ち方はこうだよ

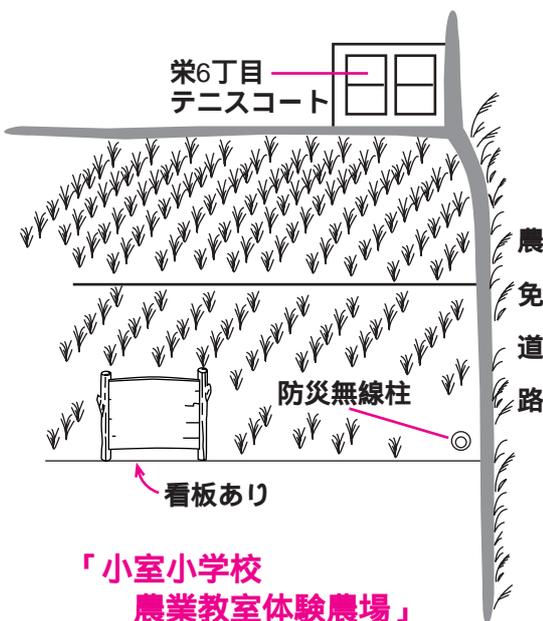


江川 翔太くん (5-3)

ぼくは、田植えの体験をしてお米を作っている人の大変な所をはじめて感じました。それから始める前にも説明してくれたいし、やっているときにしどつもしどつとくれました。次の作業が待ちどおしいです。

(体験農場案内図)

～子どもたちの成果をござんください～



横田 莉緒さん (5-3)

田植えをして、ねちよねちよして、とっても大変だったけど、そのうち慣れてきて楽しかったです。米は食べるだけなら簡単だけど作るのは大変なんだなと思いました。農家の人は、1年中稲をそだてていて、すごいと思いました。わたしは田植えだけでもとってももつたけれど、ほかにもいろんな仕事を1年中できる農家の人はえらいと思います。とってもいい思い出になりました。

植えた苗の今の様子は？

7月7日現在の苗の様子です。この日はあいにくの雨模様でしたが、他の田んぼの稲と同じように、順調に育っていました。これから暑い夏を乗り越えて、育っていく稲を秋に収穫するのが楽しみです。



7月7日現在の様子